

Form 3

Date (日付)

30/7/2010 (Date/Month/Year:日/月/年)

Activity Report -Science Dialogue Program-
(サイエンス・ダイアログ事業 実施報告書)

Fellow's name (参加外国人研究者氏名): Ayman Samir Farid ABDEL-ALEEM (ID No. P09124)

Participating school (参加機関(受入学校名)): Miyazaki Kita High School, Miyazaki

Date (実施日時): 21/7/2010 (Date/Month/Year:日/月/年) Time: from 13:10 to 15:00

Lecture title (講演題目): (in English) New Aspects of Parasitic Infections: the Potential Effects of Parasitic Infections on Hepatic Functions

(in Japanese) 寄生虫感染が引き起こす肝機能における潜在的な影響の新たな一面

Lecture summary (講演概要):

My lecture has been divided in to 6 parts; self-introduction, my country at a glance, Egypt-Japan Scientific Collaboration, my research, conclusions, and acknowledgment

The scientific part of my lecture showed our trial to explore new and unknown effects of parasitic infections and the associated immune response on the important functions of liver. One of these functions is the synthesis of some biological important enzymes which play role in the protection against atherosclerosis and detoxication of some organophosphate compounds like nerve gases.

We tried to show these findings to students of in simple and direct ways.

Language used (使用言語): English with some Japanese translation

Lecture format (講演形式):

Lecture time (講演時間) 90 min (分), Q&A time (質疑応答時間) 10 min (分)

Lecture style (examples: used projector, conducted experiments)

(講演方法 (例: プロジェクター使用による講演、プレ実験など))

Projector

Interpreter (example: assistance by host or colleague, provided Japanese explanation by yourself)

(通訳 (例: 受入研究者によるサポート、外国人研究者本人による日本語説明))

Assistance by colleague

Name and title of assistant (協力者 職・氏名) (example: host or colleague)

Mr./ Shogo MIDO (colleague)

○Other note worthy information (その他特筆すべき事項):

Impressions and opinions of assistant (協力者から本事業に対する意見・感想等がございましたら、お願いいたします。):

サイエンス・ダイアログのスタッフの皆様

この度は、こうした素晴らしい機会に参加させて頂きまして本当に有り難う御座いました。不精ながら、この場をお借りしまして、お礼申し上げます。

今なお耳にする『受験戦争』や『偏差値主義』、こうした社会背景のもと、今の子供たちが純粋に「楽しいから学びたい」と思える教育がとても少なくなっています。私も経験してきたことでした。しかし、このサイエンス・ダイアログの様な特別な機会があると、いつもの授業とは少し違う雰囲気の中で、普段とは違う姿勢で話を聴き、感じる事が出来るのだと思いました。(典型的なエリートのアイマン氏と、落ちこぼれで問題児だった自分の珍コンビも、雰囲気を和らげるにはよかったのかも二人で苦笑したりもしましたが。)氏のスピーチの最中も何度も「そうなんだ、知らなかった」とつぶやく声を聞きました。彼らの顔は、とても楽しそうに「知らなかった」と言っていました。『知らなかったから覚えなくてはいけない』、も教養・後学としてはよい考え方かもしれません。しかし、自分の考えではありますが科学の一步は『(知らなかったことを)面白いと思ったから覚えたい・学びたい』だと思っています。今回のスライドでもアイマン氏との作業の中で、自分達なりの『科学とは?』を伝えようと試みました。それが伝わり、彼らが大学へと進学する時に、なにか志したいものがあるという強い動機、純粋に色々なことを楽しみたいと思える心を持って進学して欲しいと願っています。

少し偏りのある意見だと思いますが、御傾聴下さい。多分に、今回の私たちのプレゼンテーションは、殆どを英語で行った上に、事前に知らされていない単語やラフな英訳が多々あり、混乱もさせたと反省しています。英語の授業として扱われたら準備不足と言われていたでしょう。しかし、一言一句スピーチの内容を事前に知らせたりもせず、当日配布したハンドアウトと共に当日のスライドの中で『何だこれ?』と思わせる部分を盛り込んだことが、逆によかったと思っています。リアルタイムで集中して新しい情報をつかむこと、何となくでも流れと本意を感じることを生徒の皆さんに体験してもらいたかったのです。

時間いっぱいまで話してしまったために、生徒さんからの Q&A にはろくに答えられなかったのが唯一の心残りではありましたが、何よりも自分達が楽しませて頂きました。また、この様な学びの場にて私の微力が役に立つ機会がありましたら、是非ともお声をお掛け下さい。

2010年7月28日

宮崎大学 獣医寄生虫病学研究室

三堂 祥吾